

〔 横浜みなとみらいホール 〕
令和 6 年度業務計画及び収支予算
〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

- ※ 文中の事業欄において、
●：主催事業 ○：共催事業
を示します。
- ※ 文中の達成指標欄において、
□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜みなとみらいホール
所在地	横浜市西区みなとみらい 2-3-6
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階建て
敷地・延床面積	専有延べ床面積 18,688 m ²
開館日	平成10年5月31日（大ホール）・2月1日（小ホール）

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル1階
代表者	理事長 近藤 誠一
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	令和4年4月1日から令和10年3月31日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	平成10年2月1日

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜みなとみらいホールの基本方針及び横浜市が進める「文化芸術創造都市」の施策に沿い、企画性が高く新しい視点を提供する事業展開によって国内有数のコンサートホールとしての独自の存在感を高めていきます。それと同時に音楽の持つ力によってもたらされる憧れや喜びを市民の方が最大限に享受し、夢を実現できる場所として愛されるコンサートホールであり続けることを大切にします。これまでの経験とノウハウも総動員しながら第3期の提案書に示した各使命を果たし、豊かな市民生活を支えるとともに、今後直面する様々な課題をも解決していくために、次の5つの方針で横浜みなとみらいホールの運営に取り組みます。

方針1 あらゆる世代の市民が創造性を発揮し活力のある持続可能な社会を支えます

「演奏する」、「聴く」、「制作する」という立場の垣根を意識せず、柔軟に自由に音楽と接する

機会を増やし、演奏家の創造性を高め、主体的に音楽を楽しむ市民の方を増やします。第三期指定管理期間は、演奏家が“ミュージシャン・プロデューサー”となって公演や事業を制作する取組を行っていきます。プロによる公演のほかに市民の方の利用率がとても高いことも当館の特徴です。指定期間を通じて、「制作する演奏家」と「演奏する市民」を応援し、増やしていくことで、年齢や性別、既成の立場に関係なく、心を柔軟にし、新しい発想を生み出す土壌を育み、活力ある社会の実現を目指します

方針2 次世代育成や社会包摂に対する取組をさらに発展させます

年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的な状況等に関わらず、誰もが心豊かに暮らせる社会を支えるために、音楽は大きな力を発揮します。当館では、これまでも障害のある方が参加する事業を積極的に行ってきましたが、これをインクルージョンという視点で、音楽の力をさらに活用し、さらに様々な立場の人々への取組に広がっていきます。

方針3 困難な状況において音楽がいかに関心の人々の心を支えていくものであるかを示します

感染症の影響によって、音楽活動だけでなく、人々とのふれあいによる心の安らぎが蝕まれることがないように、市民の方が生の音楽に触れ、感受性や想像力を育む機会を作り出します。指定期間を通じて、小さな演奏規模のコンサートや臨場感のあるオンライン配信による音楽体験など、あらゆる工夫で臨機に対応できる運営を目指します。

方針4 高い芸術性と創造性を発揮し街の魅力を発信するブランドとなります

住む人、働く人がこの街を誇りと感じられる価値と魅力を発信するブランドとしての信頼を形作り、国内外で高い評価を受ける演奏者が更に創造性を発揮する機会を作り、また、次世代を担う若者が公演の企画や運営を継続することで、高い芸術性と創造性が発揮されるコンサートホールとしての信頼を確立します。ユニークベニューとしてのMICE誘致への協力も含め、好循環を生み出すことを目指します。

方針5 市民が生き抜く力を湧きたたせる精神的基盤となります

質の高い生の芸術が生み出される瞬間に立ち会い、そこでしか感じることでできない刺激に感性が触れることによって聴く力、観る力、感じる力が育まれます。横浜みなとみらいホールは、年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的な状況等にかかわらず、このような経験によって、市民の方が生きる喜びを感じ、多様な価値観を得ることで、生き抜く力を湧きたたせる精神的基盤となります。

(2) 令和6年度の業務の方針

ア 全体について

令和6年度は第3期指定管理折り返しの重要な年度として、令和4年度のリニューアルオープンや横浜音祭り、令和5年度の開館25周年記念といった一連の盛り上がりをもとに、これまでの取り組みや関係性を“深化・進化”させるとともに、四半世紀の蓄積や知見を“顕在化”させることで、各使命達成に向けての足固めを行います。主催事業は、時宜に叶った自立的で効果的なプログラミングを行うとともに、歴史ある継続事業のアーカイブ化も実施します。広報は、これま

でのメディアとの関係性を発展させ、ホールの価値や魅力を広く発信しプレゼンス向上に努めます。また、SNS を積極的に活用し、横浜みなとみらいホール・ファンを獲得します。施設運営は、レセプションやチケットセンタースタッフの研修など人材育成に力を入れ、質の高いサービスを提供するとともに運営の効率化に取り組みます。施設管理は、危機管理及び危険防止に関するマニュアルを見直し、引き続き、すべてのご来場者様やご利用者様が安心して楽しめる環境を提供できるように努めます。

また、変化の激しい社会情勢においても、音楽がもたらす力や喜びを市民が最大限享受できるよう、持続可能で健全な循環を生む施設運営についてホール全体で検討します。さらにグループの枠を超えホール全体で取り組みを示すこと、財団の総合力を活かした連携や、市内文化施設・他都市音楽ホールや学校・医療機関・企業市民等他分野のステークホルダーとの連携・協働といった多様なつながりを推進していくことで、横浜の地域性や横浜みなとみらいホールの新たな可能性を広く拓きます。

みなとみらいエリアで開催されるイベントにエリア内唯一のクラシック専門ホールとして参画し、都市の賑わいづくりに貢献します。

イ 使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。

“プロデューサー・イン・レジデンス”では、反田恭平が2代目プロデューサーを務め、国内外で活躍する演奏家としての発信力を活かしながら、横浜みなとみらいホールならではの企画性の高い取り組みを実施します。音楽に触れることへの期待感とコンテンツの独自性・発信性を高めていきます。

また、「ジャズ ピアノリサイタル」を新たに開始して、多様な音楽に親しむ大人の時間を提供します。

ウ 使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動の場を提供します。

国内プロオーケストラをはじめとした質の高い公演をはじめとして、地域の音楽事業者や音楽団体による優良な公演の誘致を行います。誘致した公演は協力公演としてメールニュース、公演カレンダーなど当館メディアを活用して主催公演とともに広報 PR に努めます。あわせて多様なご利用者様に対して、利用受付から利用終了まで快適にご利用いただけるよう、舞台技術者とともに公演当日まで適切にサポートします。

エ 使命3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。

令和5年度には、演奏する人の次世代層を育むためのプログラム、聴く人の次世代層を育むためのプログラム、演奏会をつくる人の次世代層を育むためのプログラムを具体的に整備しました。令和6年度は“演奏する人・聴く人・つくる人”を、音楽を愛する若い層が柔軟にこの3つの方向性の取り組みを自由に行き来しながら楽しめる場や体験を創り続け、また教育現場とも提携し

ながら意義を発信することで、音楽に親しむ市民の裾野を拡張します。

- オ 使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人達が音楽に触れる機会を創出します。

公立文化施設連携の一環として東京文化会館のリラックスパフォーマンスを新たに共同企画として開催します。東京文化会館で取り組んでいる、視覚・聴覚・発達障害・肢体など、どのような障害をお持ちでも一つのコンサートを鑑賞するという取り組みのノウハウを身に付け、今後の鑑賞事業の展開に活かします。今後もみなとみらい地区に位置するコンサートホールとして、周辺に集積するR&Dや大学等とも連携しながら、あらゆる人達が音楽と出会う機会を多角的に創出します。

- カ 使命5 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献します。

持続可能なホール運営を実現するため引き続きサービスの質の向上と運営の効率化に取り組みます。あわせてすべてのご利用者様、ご来場者様が安心してコンサートホールで演奏会を楽しめるよう危険防止と危機管理に努めます。

また、「音楽のまち」として都市ブランディングの機運が高まる周辺環境を好機と捉え、みなとみらい21をはじめとした地域の多彩なステークホルダーとの連携にも積極的に取り組むことにより、横浜の魅力発信に貢献します。

- キ 使命6 大規模改修による長期休館を活かし、横浜みなとみらいホールのプレゼンスの向上を図ります。

リニューアルオープン之机を捉えて展開した広報プロモーションでのネットワークを活かし、休館中に定めたコンセプトとスローガン（「ときめく音楽を海の見えるホールから」）を活用して当館の存在意義を打ち出し、「ミュージックシティ」を打ち出す街のブランディングに寄与し、市内唯一のクラシック音楽専門ホールとしてのプレゼンス向上を目指します。

- ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続します。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、徹底した感染防止対策の下で、安全に自主事業及び貸館業務を実施し、市民の文化活動の基盤として施設運営を継続します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について引き続き必要な対策を講じるとともに、他施設と情報共有に努め対策の緩和に対応します。感染症の流行に加えて地震や台風など災害時における業務の継続に向けて取り組みます。

事業面ではこれまでデジタル化して蓄積した事業コンテンツを有効活用することにより、事業効果の達成を目指します。

4 使命の指標の達成状況

(1) 使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目			R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	ホール におけ るジャ ズ別 の公演 回数及 び入場 者数	公演 数	クラシカル	35本	27本	—	—	—	31本	—
			ポピュラー	3本	2本	—	—	—	2本	—
	入場 者数	クラシカル	21,230 人	32,000 人				40,000 人		
		ポピュラー	2,514 人	2,500 人				3,000 人		
2	横浜みなとみらいホールなら ではの企画数			12	10	—	—	—	12	—
3 ★	プロデューサー・イン・レジ デンス事業			4	6事業 (累計)	—	—	—	15事業 (累計)	—
4 ★	新作委嘱作品と過去委嘱作品 再演本数			4	4作品 (累計)	—	—	—	10作品 (累計)	—
5 ★	おとなポップス公演数			0	2企画 (累計)	—	—	—	10企画 (累計)	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	横浜みなと みらいホー ルの事業モ ニター(※) による評価	R 4 実績	リニューアル記念事業3公演で事業モニター実施 (10/29 神奈川フィルハーモニー管弦楽団、11/3 井上道義 指揮 NHK 交響楽団、11/25 近藤岳オルガンリサイタル)
		R 5 達成指標	4つの事業に対し、事業モニター実施(リニューアルオー プン事業(2022年のみ)、おとなポップス、オルガンコン サート・シリーズ、ジルヴェスターコンサート、クラシッ ク公演(2023年以降))
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—

		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	モニタリングの結果、対応すべき事柄について事業に反映されている
		R 8 実績	—
2	横浜みなとみらいホールの事業等のアーカイブ作成と公開	R 4 実績	アーカイブ立ち上げに向けた準備、資料整理
		R 5 達成指標	アーカイブの立ち上げ（データの整理・公開までの仕組みが確立される）
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アーカイブ更新・運用（適宜、動画公開。対象事業の認知拡大・事業趣旨の理解が深まる）
		R 8 実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

“プロデューサー・イン・レジデンス”では、反田恭平が2代目プロデューサーを務め、国内外で活躍する演奏家としての発信力を活かしながら、横浜みなとみらいホールならではの企画性の高い取り組みを実施します。音楽に触れることへの期待感とコンテンツの独自性・発信性を高めていきます。

また、「ジャズ ピアノリサイタル」を新たに開始して、多様な音楽に親しむ大人の時間を提供します。

これらの事業をモニタリングの対象として、事業の定着を図ります。

また、横浜で歴史を積み重ねてきた伝統ある事業「Just Composed in Yokohama」のアーカイブを立ち上げ、過去から未来に向けた価値・魅力の発信につなげます。

(2) 使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動を提供する。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	大ホール (日単位)	100%	97%	—	—	—	97%	—
	小ホール (日単位)	98%	97%				98%	
	リハーサル室 (日単位)	81%	68%				71%	
	音楽練習室 (コマ単位)	60%	82%				85%	
	レセプション ルーム	33%	35%				40%	

	(コマ単位)							
2	プロフェッショナルのオーケストラ、アーティストの指定管理者以外の公演数	81	90				100	
3★	利用下見・相談件数	55件	150件	—	—	—	150件	—
4★	利用者アンケートによる満足度（5点満点）	ホール 4.8 練習室 4.3	4.7 以上	—	—	—	4.7 以上	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	市内音楽団体の活動状況把握	R 4 実績	実施せず
		R 5 達成指標	市内音楽団体リスト整備・運用
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	リスト更新とともにホール利用時の助言等に生かす
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

国内プロオーケストラの誘致に際しては本番利用のみならずリハーサルの優先利用を進めるなど質の高い公演の実現に貢献します。市内音楽団体の活動状況調査の結果に基づき利用団体の活動へ理解を深め、必要に応じて良質な公演の誘致を進めます。

あわせて多様なご利用者様に対して、利用受付から利用終了までスムーズにご利用いただけるよう、効果的な舞台利用、効率的な運営方法の提案を行い公演の成功に導きます。

(3) 使命3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げる。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	子ども（高校生以下）の来館者数	27,797人	主催公演 35,000人	—	—	—	主催公演 40,000人	—
2	初めて横浜みなとみらいホー	20.3%	全世代	—	—	—	全世代	—

	ルを訪れた人の割合(世代別、アンケート結果)		20%				20%	
3 ★	こどもの日コンサートの企画に参加した中学生の人数	27人	30人 (累計)	—	—	—	40人 (累計)	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	子どもの頃や若手の頃に横浜みなとみらいホールで活動を行い、横浜みなとみらいホールから活躍の場を広げていったアーティストの状況把握	R 4 実績	調査
		R 5 達成指標	アーティストリスト作成 (現状の把握)
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	リスト更新・主催事業への起用 (MMH ゆかりの人材の還流・認知拡大)
		R 8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

子どもたちが横浜みなとみらいホールに集うことができる多彩な企画を実施します。「こどもの日コンサート」では会場に集う子どもたちに加え、中学生がプロデューサーとして公演制作に携わり、社会の中で音楽の持つ力を意識する人材を育みます。また、中学生プロデューサー卒業生には「こどもの日コンサート」だけでない活躍の場を作り、音楽を通じた社会との交流体験を深めます。

中高生によるジャズ演奏活動「みなとみらい Super Big Band」、「10代のためのパイプオルガン・レッスン」、「みなとみらい遊音地」など、若年層の来館を推進するプログラムを計画的に実施、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。

「心の教育ふれあいコンサート」については横浜市内全小学生が体験する全国でも有数の人材育成プログラムである旨の告知に努め長期的な事業の継続のため当館の経験とノウハウを活かします。

(4) 使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人たちが音楽に触れる機会を創出する。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	3事業	5事業	—	—	—	3事業	—

2	学校等へのアウトリーチの実施数	5事業	5事業	—	—	—	5事業	—
3★	特別支援学校との協働プロジェクト数	1件	2件				2件	
4★	支援学級との協働プロジェクト数	1件	4件	—	—	—	2件	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	あらゆる方に音楽に触れてもらうためのノウハウの蓄積	R 4 実績	これまでの取組整理
		R 5 達成指標	マニュアル作成（ノウハウの見える化・施設内共有）
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	マニュアル更新（区民文化センター等とのノウハウの共有）
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

公立文化施設連携の一環として東京文化会館のリラックスパフォーマンスを新たに共同企画として開催します。東京文化会館で取り組んでいる、視覚・聴覚・発達障害・肢体など、どのような障害をお持ちでも一つのコンサートを鑑賞するという取り組みのノウハウを身に付け、今後の鑑賞事業の展開に活かします。今後もみなとみらい地区に位置するコンサートホールとして、周辺に集積するR&Dや大学等とも連携しながら、あらゆる人達が音楽と出会う機会を多角的に創出します。

(5) 使命5 利用者の視点に立ち、継続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献する。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	0件	—	—	—	0件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	104%	90%	—	—	—	90%	—
4★	施設・設備の更新状況を把握し、事業継続計画策定	危機管理マニ	危機管理マニ				危機管理マニ	

		ユアル 作成	ユアル 再整備				ユアル 検証	
	災害マニュアルに則った災害 訓練	1回	2回				2回	
5 ★	地域における連携先の開拓 (施設、企業)	4件	1件 (累計)				5件 (累計)	
6	SNSフォロワー数	11,181 ※ R5 年 2月現 在	8,000	—	—	—	10,000	—
7 ★	大規模改修工事期間の18区 コンサート開催と有料入場者 数 2,000人	R3・4 年度で 全18 区の会 場で実 施/ 3,322 人	—	—	—	—	—	—
8 ★	大規模改修工事期間のウェブ 会員新規登録者数 既存登録 者数の10%以上	約21% 増	—	—	—	—	—	—

※6～8は使命6より移動

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通 番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さ についてのヒアリング (アンケート調査、インタビ ュー調査の実施)	R4実績	アンケート調査実施
		R5達成指標	利用者懇談会など実施
		R5実績	—
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	ヒアリングで得られた要望のうち必要と判 断される案件に対し迅速に対応できている
		R8実績	—
2	管理運営費推移の要因分析	R4実績	改修工事後の光熱水費等のデータ収集
		R5達成指標	実施（労務単価やエネルギー単価など外的要 因の動向、月々の光熱水費使用量を逐次把握 し、過去データと比較分析を行う）

		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	総括（管理運営費に関わる外的要因を踏まえて適切に契約を執行するとともに、光熱水費使用量の分析結果を全館空調の制御等に活かしている）
		R 8 実績	—
3	リニューアルオープンに際してのウェブサイトでのアピール	R 4 実績	実施（ウェブサイト更新）
		R 5 達成指標	実施（ウェブサイト更新 情報更新等に関する取扱マニュアル作成）
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	継続（必要に応じてマニュアルが更新され、ユーザビリティの一層の向上が実現している）
4	横浜みなとみらいホールに関するコメントの把握	R 4 実績	コメント把握
		R 5 達成指標	把握（来場者・利用者のコメントを把握するスキームの確立）
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	総括（多様なコメント・問い合わせに対し、スムーズに対応できている）
		R 8 実績	—
5	リニューアルオープンに向けてのスタッフ育成	R 4 実績	レセプション採用研修、フォローアップ研修実施
		R 5 達成指標	研修実施等（スタッフの経験に応じた研修計画が立案・実行されている）
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	スタッフの経験に応じた研修計画が実施され、必要に応じて修正されている
		R 8 実績	—

※ 3～5 は使命 6 より移動

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

再開館にあたって変更した小ホール運営のポイントを分かりやすくまとめ、利用者との打合せで丁寧に確認を行います。また音楽練習室のウェブ予約については引き続きご利用方法に関する情報を広く周知し登録者数の増加に取り組めます。あわせてホール運営の要となるレセプションスタッフおよび受付スタッフを適切に配置するとともに、再開館から取り組んでいる館内の安全管理強化のためエントランスへの警備員の配置を行います。

「音楽を奏でる街」として都市のブランディング確立を目指す横浜みなとみらい 21 が設置する「Music Port YOKOHAMA」に参画し、エリアプロモーションに協力するとともに市内唯一のコンサートホールとしてのプレゼンス向上を目指します。

ホールが常に身近な存在となるよう、プロデューサーやオルガニスト、今後の演奏者なども含めてSNSでの適時発信によってフォロワーを増やします。そのためにも公演情報だけでなく、アーティストや楽曲、みなとみらいエリアの魅力など多面的に紹介することで、ホールへの来場がより楽しいものとなるよう発信します。

リニューアルオープンでの広報プロモーションのネットワークを活かし、「ときめく音楽を海に見えるホールから」のコンセプトを活用し当館の存在意義を打ち出し、「ミュージックシティ」という街のブランディングに寄与し、市内唯一のクラシック音楽専門ホールとしてのプレゼンス向上を目指します。

ひとつひとつの寄せられたコメントを把握し対応することで、公演のチケット販売促進や利用者サービスの向上につなげます。

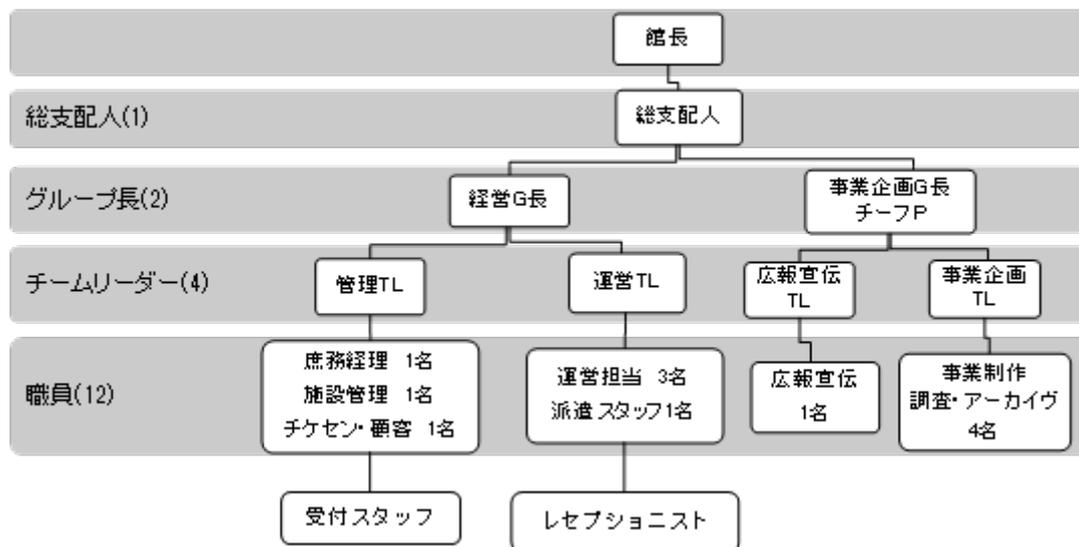
- (6) 使命6 大規模改修による長期休館を活かし、横浜みなとみらいホールのプレゼンスの向上を図る。

使命6にかかる定量指標、定性指標については、再開館に伴い使命5に記載。

5 その他の主な提案事項の計画

(1) 運営組織の構造

芸術監督としての館長の指示命令を受けて発信力を高めるために、事業企画グループ内に広報チームを配置し事業制作力と広報発信力のスキルを高め企画力を強化します。他方、チケットセンター、レセプションист、受付スタッフを引き続き経営グループにて統括管理し館の運営に係る情報を横断的に共有し質の高いサービスを提供します。



(2) 人材育成

接客サービスレベル向上のため、レセプションист及びチケットセンタースタッフの新規採用時研修や、フォローアップ研修を行います。業務の基準及び提案書に則り、施設運営に不可欠な人権研修、個人情報保護研修などを実施します。財団が施設職員を対象に行う各種研修、横浜市の主催する施設保全研修などに参加、ホール運営に必要な専門性、マネジメント能力の向上を目指します。

(3) 専門会社への業務委託

舞台業務、設備運転監視業務、清掃業務、警備業務、託児サービス業務、ドリンクサービス業務などホール運営にとって不可欠となる業務を、財団の諸規定に則り適切に専門会社へ委託します。各社担当者とは定例的または必要に応じて打ち合わせの場を設けホール運営にかかる様々な課題の解決に取り組みます。

(4) 収支について

ア 収入

芸術アクション事業費の収入源や、それに伴う事業規模縮小に伴う助成金の減少を受けて、既存事業本数の見直しをしました。収益を目的とする事業を立ち上げつつ、既存の事業についてもひとつひとつの収益化について取り組みます。また、そのためにもチケット販売について改めて力を注ぎます。

広報経費なども、可能な限り均衡した収支とするために、寄付金や協賛金の獲得に取り組みます。特に令和6年度は地元の企業中心に小口での協賛に理解を求めます。

提案書に記載の利用料金収入目標額の確保に向けて取り組みます。利用の中止による空きが出た場合は積極的に広報PRするなど様々な手段を講じて利用を促進します。

イ 支出

事業面につきましては、絞った事業本数の事業を、適正でスリムな事業費で実施していきます。

光熱水費の執行については引き続きエネルギー単価等高騰に対応するため、空調負荷の高い大小ホールについて季節に応じた幅のある温湿度制御を行うなど節減策を講じます。施設設備の故障に際しては速やかに横浜市へ報告するとともに、予算の範囲内で優先度の高いものから修繕を実施します。

6 業務の基準に基づく業務について

業務の基準に定められた業務の実施時期等については、業務計画確認表に記載します。

7 収支予算表

別紙のとおり

令和6年度 「横浜みなとみらいホール」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	519,899,304	0	519,899,304	0	519,899,304	横浜市より
指定管理料	519,899,304		519,899,304		519,899,304	管理運営経費
利用料金収入	207,850,000		207,850,000		207,850,000	
市受託料収入	22,684,000		22,684,000		22,684,000	心の教育ふれあいコンサート実施にかかる経費
自主事業収入	59,793,000		59,793,000		59,793,000	
自主事業収入	56,495,000		56,495,000		56,495,000	入場料収入、講座料収入等
横浜市負担金収入	860,000		860,000		860,000	横浜市芸術文化教育プラットフォーム負担金等
その他負担金収入	2,438,000		2,438,000		2,438,000	オーチャードホールN響公演負担金等
雑入	29,190,000	0	29,190,000	0	29,190,000	
印刷代	1,779,000		1,779,000		1,779,000	利用者コピー、ゴミ処理代等
自動販売機手数料	271,000		271,000		271,000	自動販売機手数料
国庫助成金	16,000,000		16,000,000		16,000,000	文化庁支援事業
民間協賛金・助成金・寄付金	3,200,000		3,200,000		3,200,000	企業協賛金等
その他	7,940,000		7,940,000		7,940,000	チケット販売手数料、レセプションist増員配置、財団からの繰入金収入等
収入合計	839,416,304	0	839,416,304	0	839,416,304	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	252,362,000	0	252,362,000	0	252,362,000	
給与・賃金	207,949,000		207,949,000		207,949,000	館長以下事務所スタッフ、チケットセンター、レセプションist人件費
社会保険料	24,533,000		24,533,000		24,533,000	
通勤手当	14,302,000		14,302,000		14,302,000	職員、アルバイトの通勤費
健康診断費	174,000		174,000		174,000	
勤労者福祉共済掛金	108,000		108,000		108,000	
退職給付引当金繰入額	5,296,000		5,296,000		5,296,000	
事務費	43,702,304	0	43,702,304	0	43,702,304	各費目の自主事業にかかる経費については「自主事業費」に計上
旅費	660,000		660,000		660,000	職員出張旅費等
消耗品費	7,425,304		7,425,304		7,425,304	施設消耗品、舞台消耗品、衛生用紙類、事務機器消耗品等
会議滞在費	20,000		20,000		20,000	出席者お茶代等
印刷製本費	400,000		400,000		400,000	施設パンフレット、様式等印刷費
通信費	3,188,000		3,188,000		3,188,000	電話、ネット回線費用、宅配便、郵送費
使用料及び賃借料	14,655,000	0	14,655,000	0	14,655,000	
横浜市への支払分	170,000		170,000		170,000	横浜市目的外使用料（ドリンクコーナー等）
その他	14,485,000		14,485,000		14,485,000	B1駐車場、コピー機、玄関マット等
備品購入費	360,000		360,000		360,000	
図書購入費	0		0		0	
施設賠償責任保険	151,000		151,000		151,000	
委託費	13,429,000		13,429,000		13,429,000	予約システム、チケットシステム、託児等に係る委託費
職員等研修費	416,000		416,000		416,000	
振込手数料	694,000		694,000		694,000	銀行振込手数料
リース料	309,000		309,000		309,000	サーバー、PCリース料
手数料	1,230,000		1,230,000		1,230,000	クレジットカード決済手数料、廃棄物処理費等
地域協力費等	765,000		765,000		765,000	クイーンズスクエア横浜イベント実行委員会会費、地域イベントへの広告出稿等
事業費	113,845,000	0	113,845,000	0	113,845,000	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	24,704,000		24,704,000		24,704,000	「心の教育ふれあいコンサート」の支出
自主事業費	89,141,000		89,141,000		89,141,000	出演料他、自主事業にかかる支出
管理費	345,933,000	0	345,933,000	0	345,933,000	
光熱水費	110,000,000	0	110,000,000	0	110,000,000	
電気料金	37,200,000		37,200,000		37,200,000	
冷温水料金	67,000,000		67,000,000		67,000,000	DHC温熱、冷熱料金
水道料金	5,800,000		5,800,000		5,800,000	上下水道料金
清掃費	0		0		0	清掃費は建物管理費に含む
修繕費	2,020,000		2,020,000		2,020,000	小破修繕費
機械警備費	330,000		330,000		330,000	
設備保全費	209,370,000	0	209,370,000	0	209,370,000	
建物管理費	110,000,000		110,000,000		110,000,000	設備運転・監視、日常・定期清掃等 建物統括業務
電気設備保守	1,680,000		1,680,000		1,680,000	
その他委託費	92,265,000		92,265,000		92,265,000	舞台技術員、有人警備、舞台・音響・照明保守、客席保守点検等
その他保全費	5,425,000		5,425,000		5,425,000	楽器（ピアノ、オルガン）保守経費
共益費	24,213,000		24,213,000		24,213,000	クイーンズスクエア横浜管理組合費
公租公課	23,646,000	0	23,646,000	0	23,646,000	
事業所税	0		0		0	
消費税	23,478,000		23,478,000		23,478,000	
印紙税	143,000		143,000		143,000	各種契約等にかかる印紙代
その他	25,000		25,000		25,000	
事務経費	59,928,000	0	59,928,000	0	59,928,000	
本部分	59,928,000		59,928,000		59,928,000	財団事務経費
当該施設分	0		0		0	
二一ズ対応費	0		0		0	
支出合計	839,416,304	0	839,416,304	0	839,416,304	
差引	0	0	0	0	0	